第53期 株主通信

平成25年4月1日から平成26年3月31日

TAKAMAZ

高松機械工業株式会社

［証券コード6155］

株主の皆様へ

トップに訊く——The President Talks

代表取締役社長

高松喜与志

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社第53期株主通信をお届けするに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

第53期を振り返りますと、アメリカ経済の回復や堅調な内需によって、大企業を中心として収益が改善し、設備投資も増加してきました。また、平成26年4月の消費税増税を控えた駆け込み需要の影響もあって個人消費も増加するなど、景気は緩やかに回復を続けてきました。

工作機械業界では、中国を含めたアジアの回復が遅れつつも、北米の好調持続や欧州の回復傾向による需要増加がその分を補い、内需も自動車関連産業がけん引して堅調に回復してきました。この結果、平成25年度業界受注は内需・外需ともに前年実績を上回り、総額1兆2,049億円と2年ぶりに増加し、4年連続の1兆円超えとなりました。

このような状況の中、当社グループでも工作機械受注状況は改善を続けていますが、第52期後半が低水準で推移したことの影響を受け、売上高は前期を下回る結果となりました。

第54期における事業環境は、景気の回復基調が続き、工作機械需要も堅調を維持していくことで、良好に推移する見通しであります。

当社グループでも、足元の工作機械受注状況が高い水準にあり、また今後の状況も、海外向けの増加に加え、中小ユーザによる内需回復が期待されますので、過去最高となる売上高の達成を見込んでいます。海外経済の減速等のリスク要因はありますが、海外市場拡大のための戦略や生産能力拡大のための施策に取り組み、目標達成をはかります。

当社グループは、グローバル化や成長領域のものづくり創出により将来にわたって企業成長を続けていく所存でありますので、今後も引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

Q. 第53期の連結業績結果と取り組みについて教えてください。

A. 第53期は、売上高145億19百万円（前年同期比3.3%減）、営業利益7億37百万円（同31.7%減）、経常利益9億5百万円（同27.2%減）、当期純利益4億36百万円（同49.7%減）となりました。当期純利益においては、所有する土地を遊休土地と認識し減損処理を行ったこと、また、当期から一部の海外関係会社が配当金支払いを開始したことによって繰延税金負債を計上したことの影響がありました。

次に、当社グループは3つの事業分野に展開しておりますので、それぞれの概況についてご説明します。

①工作機械事業

（事業内容：主に中・小型CNC旋盤の製造、販売およびサービス・メンテナンス。自動化技術に強みがあり、ユーザニーズに応えてカスタマイズした製品群を提供）

当期は需要拡大が見込まれる海外市場への対応強化による市場シェアの拡大と生産の増強および効率化に取り組んできました。

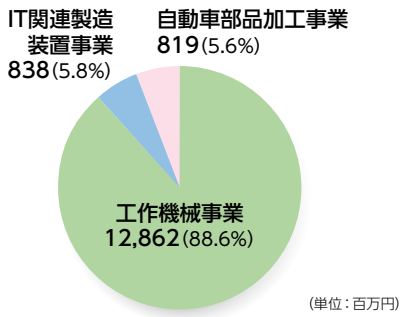
中国では当社と関係会社が一体となって市場シェアの拡大に努め、中国市場の需要拡大に対応するための体制を整備してきました。インドネシアでは現地法人を平成25年4月に設立し、販売活動および迅速なサービス・メンテナンスを行ってきたほか、日本から仕入を行うための輸入ライセンスを平成26年1月に取得しました。ヨーロッパでは製品の積極的アピールによって引合・受注の確保に努めてきました。

その他、受注した日系大手ユーザの海外設備投資案件に最適な提案とサービスを提供することで、次の案件の受注確保に繋げたとともに、海外販売体制の拡充を進め、各海外拠点の増員や現地ディーラの新規開拓を行ってきました。

また、研究開発の成果として新興国向け戦略機「GSL-10」を開発し、発表しました。女性視点を付加することで新興国市場に多い女性作業者に優しい仕様とし、日本製ながらも低価格で提供しています。平成25年12月に本社工場で新製品発表会を開催しましたが、ディーラやユーザから高評価を受け、多くの受注をいただきました。

MEX金沢2014に出展した「GSL-10」

■セグメント別売上高構成比



その結果、受注高が139億80百万円（同24.3%増）、受注残高が68億67百万円（同73.7%増）、売上高が128億62百万円（同6.4%減）、営業利益が6億90百万円（同35.4%減）となりました。

また、国内の中小ユーザが設備投資に慎重な状況の中、大手ユーザが海外展開を進めたことにより、外需比率が50.3%（前年同期は43.0%）に増加しました。

②IT関連製造装置事業

（事業内容：半導体や液晶等の製造ラインに使われる製品のOEM生産）

当期の初めは厳しい状況にありましたが、新規開拓も含めた積極的な営業活動を推進してきた結果、半導体関係の需要回復がけん引役となって下期は売上高が大きく改善し、計画を上回りました。

その結果、売上高が8億38百万円（前年同期比42.6%増）、営業利益が3百万円（前年同期は16百万円の営業損失）となりました。

③自動車部品加工事業

（事業内容：自動車部品等の加工・一部組付。完成品は主に海外で生産される自動車に使用）

当期は、北米の自動車生産回復を背景に高水準の受注が継続し、フル生産体制で対応してきました。また、将来的な事業拡大のため、積極的な営業活動を行い、新規設備投資の検討も含めた新規受注の獲得や新規取引先の開拓もはかってきました。

その結果、売上高が8億19百万円（前年同期比19.1%増）、営業利益が44百万円（同58.4%増）となりました。

Q. 第54期の展望と連結業績予想を教えてください。

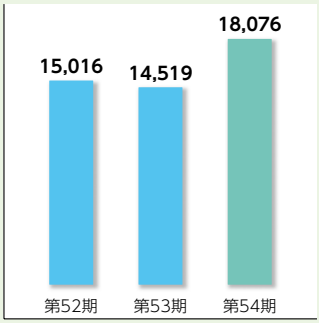
A. 日本経済は、消費税増税の影響や海外景気下振れリスクなどが懸念されますが、景気回復を支える政策の実現、増税による影響の落ち着きや海外景気の緩やかな回復・拡大が進むことで、基調的には緩やかな回復を維持していくと見込まれています。

工作機械業界でも、北米の好調さが維持されることや欧州・アジアが回復することで、内外需ともに堅調に推移すると見込まれ、日本工作機械工業会では平成26年暦年業界受注総額目標を前年

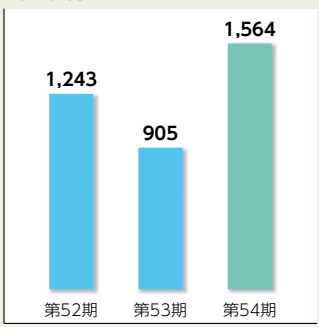
■第54期の連結業績見込み

（単位:百万円）

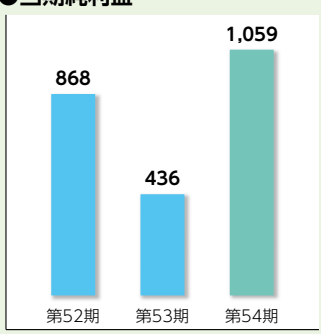
●売上高



●経常利益



●当期純利益



実績より約2,000億円増加した1兆3,000億円としています。

当社グループでも、工作機械事業の受注状況が好調であり、受注残高は生産高の4ヶ月分を超えています。今後についても、中小ユーザの需要が顕在化し、大手ユーザの海外設備投資案件も見込めます。

このような状況下での第54期の業績は、売上高が180億76百万円と過去最高を更新すると見込んでいます。

また、利益においても営業利益が14億30百万円、経常利益が15億64百万円、当期純利益が10億59百万円と大きく改善する見通しです。

Q. 課題として考えていることはなんですか。

A. 当社グループの主力事業である工作機械事業では、海外市場のほうが国内市場よりも需要が大きく、将来的にも増加していくと考えられています。そのため、海外市場の需要を取り込んでいくために体制を強化していく必要があります。

特に近年は大手ユーザの海外進出が進み、海外での設備投資案件が増加しています。海外進出の際には、現地における対応力が設備機械のメーカーを選ぶ一つ

の指針となりますので、グループ会社間や国内外拠点の連携を強化した営業活動を推進していくとともに、重要性の高まっている地域に対してグローバルサービス体制を強化していきます。

また、回復してきている需要に対し、生産量を増やして適切な納期で製品を提供していく必要があります。そこで増産を実現するため、物流システムを効果的に運用していくとともに、本社工場の最適活用による効率的な生産・出荷の遂行と、協力会社との連携体制の充実をはかります。あわせて適切な進捗管理と、環境変化に柔軟に対応した生産体制の構築を行っていきます。

Q. 株主の皆様へメッセージをお願いします。

A. 当社グループを取り巻く環境は、非常に不透明な要素を含みつつも、明るい見通しで改善が進むと見込んでいます。近年の当社グループでは、将来的な事業規模の拡大や企業価値の向上をはかるため、従業員の増員や生産設備の新設・更新を進めてきました。時流に乗り、企業として成長していくことにまい進していきます。

また、当社は製造業であることから内部留保を行うことも必要ですが、株主の皆様に対する利益還元が重要課題の一つであると認識しています。そこで第54期の配当は、中間配当5円、期末配当10円の年間15円とし、前期に比べて5円の増配を予定しています。今後も適切な配当を行っていくための企業体質強化に努めます。

今後も当社を末長くご愛顧いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

本社工場で製造する「GSL-10」

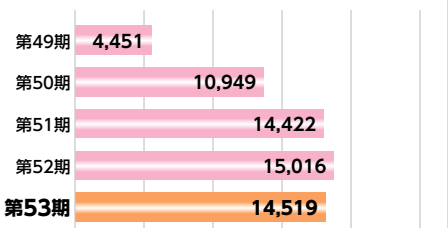
業績の推移

連結業績ハイライト

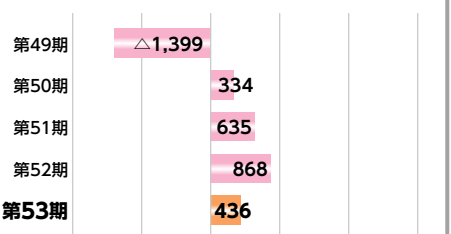
科　目		第49期 (平成21年度)	第50期 (平成22年度)	第51期 (平成23年度)	第52期 (平成24年度)	第53期 (平成25年度)
売上高	(百万円)	4,451	10,949	14,422	15,016	14,519
営業利益又は営業損失(△)	(百万円)	△ 1,737	83	988	1,079	737
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	△ 1,495	132	1,086	1,243	905
当期純利益又は当期純損失(△)	(百万円)	△ 1,399	334	635	868	436
純資産額	(百万円)	7,849	8,129	8,739	9,560	10,241
総資産額	(百万円)	11,339	14,343	15,791	16,499	17,845
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)	(円)	△ 130.56	31.20	59.16	79.75	40.08
1株当たり純資産額	(円)	727.22	752.50	799.32	876.40	937.99

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

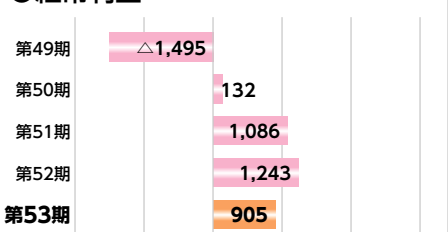
●売上高



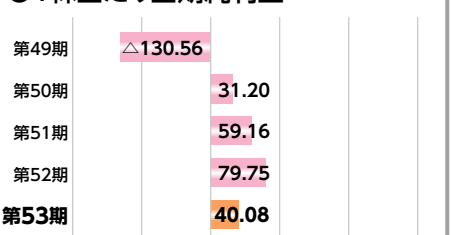
●当期純利益



●経常利益



●1株当たり当期純利益



連結財務諸表

連結貸借対照表

（単位:百万円）

科　目	前連結会計年度（平成25年3月31日現在）	当連結会計年度（平成26年3月31日現在）
（資産の部）		
流動資産	**10,769**	**11,758**
現金及び預金	3,336	3,700
受取手形及び売掛金	5,111	5,366
商品及び製品	455	414
仕掛品	768	959
原材料及び貯蔵品	779	811
繰延税金資産	233	278
その他	89	232
貸倒引当金	△ 4	△5
固定資産	**5,729**	**6,087**
有形固定資産	**4,502**	**4,524**
建物及び構築物	1,453	1,496
機械装置及び運搬具	570	600
工具、器具及び備品	115	113
土地	2,326	2,287
リース資産	30	26
建設仮勘定	5	1
無形固定資産	**113**	**204**
のれん	5	–
リース資産	105	202
電話加入権	1	1
投資その他の資産	**1,113**	**1,359**
投資有価証券	846	1,173
保険積立金	145	146
繰延税金資産	83	–
その他	38	39
貸倒引当金	△ 0	△ 1
資産合計	**16,499**	**17,845**

科　目	前連結会計年度（平成25年3月31日現在）	当連結会計年度（平成26年3月31日現在）
（負債の部）		
流動負債	**5,375**	**5,696**
支払手形及び買掛金	3,005	3,650
短期借入金	829	948
リース債務	30	55
未払法人税等	378	261
賞与引当金	115	174
役員賞与引当金	31	31
製品保証引当金	31	29
その他	951	545
固定負債	**1,563**	**1,907**
長期借入金	668	949
リース債務	98	158
退職給付引当金	497	–
役員退職慰労引当金	300	326
退職給付に係る負債	–	379
繰延税金負債	–	92
その他	0	0
負債合計	**6,938**	**7,604**
（純資産の部）		
株主資本	**9,458**	**9,779**
資本金	1,835	1,835
資本剰余金	1,822	1,822
利益剰余金	5,849	6,166
自己株式	△ 49	△45
その他の包括利益累計額	**93**	**453**
その他有価証券評価差額金	49	129
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	42	253
退職給付に係る調整累計額	–	71
新株予約権	**7**	**6**
少数株主持分	**1**	**2**
純資産合計	**9,560**	**10,241**
負債純資産合計	**16,499**	**17,845**

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科　目	前連結会計年度 (自　平成24年4月1日 至　平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自　平成25年4月1日 至　平成26年3月31日)
売上高	**15,016**	**14,519**
売上原価	11,374	11,039
売上総利益	**3,641**	**3,480**
販売費及び一般管理費	2,561	2,742
営業利益	**1,079**	**737**
営業外収益	181	186
営業外費用	17	18
経常利益	**1,243**	**905**
特別利益	47	2
特別損失	1	40
税金等調整前当期純利益	**1,289**	**867**
法人税、住民税及び事業税	410	381
法人税等調整額	9	49
少数株主損益調整前当期純利益	**869**	**437**
少数株主利益	0	0
当期純利益	**868**	**436**

連結包括利益計算書

(単位:百万円)

科　目	前連結会計年度 (自　平成24年4月1日 至　平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自　平成25年4月1日 至　平成26年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	**869**	**437**
その他の包括利益	**99**	**289**
その他有価証券評価差額金	4	79
繰延ヘッジ損益	0	△ 0
為替換算調整勘定	49	81
持分法適用会社に対する持分相当額	44	129
包括利益	**969**	**726**
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	968	726
少数株主に係る包括利益	0	0

連結キャッシュ・フロー計算書

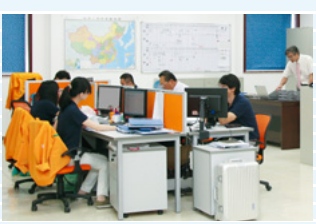
(単位:百万円)

科　目	前連結会計年度 (自　平成24年4月1日 至　平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自　平成25年4月1日 至　平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	**750**	**1,007**
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△ 310**	**△ 794**
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△ 223**	**252**
現金及び現金同等物に係る換算差額	**36**	**70**
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	**252**	**535**
現金及び現金同等物の期首残高	**1,654**	**1,906**
現金及び現金同等物の期末残高	**1,906**	**2,442**

(注) 各計算書において、記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

職場紹介 =海外編=（喜志高松貿易（杭州）有限公司）

喜志高松貿易（杭州）有限公司（以下、喜志高松といいます）は、中国の中でも経済の発展が進んでいる都市である浙江省の杭州にあります。当社と台湾・友嘉実業との合弁会社である「杭州友嘉高松機械有限公司」の本社工場の一角に事務所を置き、当社社員6名と現地で採用した中国人スタッフ6名の計12名で、TAKAMAZ製品の受注から販売・アフターサービスまで全てを担当しています。また、杭州から飛行機で2時間ほど離れた広東省の広州にも支店を開設し、北京や上海に次いで自動車産業が盛んな広州でシェア拡大に力を注いでいます。


事務所の風景

上海の展示会での活動風景

喜志高松で働く当社社員は、全員がベテランです。それぞれTAKAMAZで培ったノウハウを駆使し、お客様のどのような要望にも応え、オンリーワンの製品を提供できる力を持っていると自負しています。それは、当社の《お客様に満足の得られる商品を提供する》精神をモットーとして、一人ひとりが真剣にお客様と向き合い、最善の案を考えているからこそなのです。中国人スタッフも、当社社員に引けを取りません。中国語と日本語を流暢に使い、輸入や輸出の手続き、部品注文の対応などを完璧にこなします。こうして当社社員と中国人スタッフが協力し合い、現地ユーザとの意思疎通をはかっています。

2014年4月には新たにサービス担当部門を設置し、サービス体制を強化しました。

“TAKAMAZの機械を買えば間違いない”お客様のそんな声が地域に根付き、やがては中国全土にTAKAMAZブランドを浸透させていけるよう、喜志高松メンバーは全員一丸となって今日も飛び回っています。

● お知らせ ●
平成26年6月に社名を
「喜志高松机械（杭州）有限公司」
に変更します。（現在申請中）

女性開発者の声

低価格で操作しやすい機械を作りたい

東南アジア向けに低価格の標準機を開発することが、当機誕生のきっかけでした。東南アジアでは機械を操作する作業者の大半が女性だと聞き、女性にも使いやすい機械を作りたいと強く想いました。

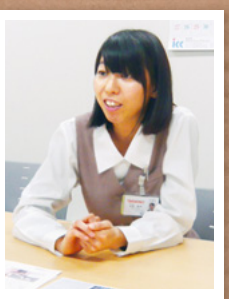
女性目線からの新たな発見

実際に現場で働く女性の声を参考にしたいと思い、当社で機械に携わる女性陣を集めて意見交換会を何度も行いました。そこで分かったことが、機械のデザイン性。今までの機種はいかにも「機械！」という外観でつまらない。機能もさることながらデザインも斬新なものが目を引くのでは、との意見がでました。そこで、機械の顔となるパネル部分に、メイドインジャパンの意味を込めて「桜色」をあしらい、低価格の機械でも主要部品は全て日本製であることを主張しました。また、女性は男性に比べ背が低く、画面や操作ボタンの位置が高すぎて作業がしにくいということも分かりました。作業者でないと分からない生の声が聞けたことは、とても参考になりましたね。

初のお披露目は名古屋の展示会

平成25年10月、ポートメッセなごやで開催されたメカトロテックジャパン2013が初披露の場となりました。日本の伝統文化を象徴する「桜」をモチーフにした今までにないパネルデザインに、お客様はどう反応するだろうと不安と緊張でいっぱいでしたが、お客様からの反響も大きく、多くの受注を獲得することができました。平成25年12月には本社工場で新商品発表会も行い、現在は毎月30台の受注をいただいています。

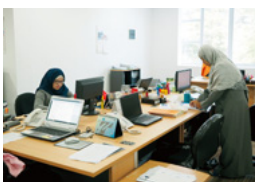
今回、開発のチャンスをいただいたことで作業者やお客様の率直な意見を聞くことができ、製品へと導くことができました。この経験を活かし、お客様が本当に求める製品の開発に力を注いでいきます。



東南アジア向けの低コスト機として生まれた「GSL-10」。新たなTAKAMAZブランドを生み出した女性開発者の声を紹介します。

トピックス

海外でも躍進しています



インドネシアにて開所式

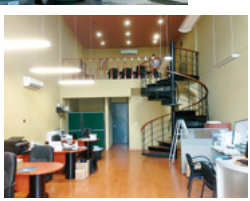
数多くの世界遺産を誇り、観光地としても有名なジャワ島の中にある西ジャワ州に、昨年現地法人タカマツインドネシアを開設し、平成26年4月25日に開所式を行いました。

西ジャワ州はインドネシア経済の中枢として自動車産業が発展してきており、多くの日系企業が進出している地域です。開所式前日には、“開所記念プライベートショー”を開催し、東南アジア向けに開発した低価格機「GSL-10」や、そのベースとなった当社の主力機「XC-100」を展示し、現地のお客様に当社の技術力を披露しました。

メキシコに駐在員を派遣

近年、大手自動車メーカーが進出しているメキシコでシェア拡大をはかっていくため、平成26年1月、メキシコの中央部であるグアナファト州に駐在員を派遣しました。

適切なサポートを提供する体制を整えることで、すでにメキシコに進出したお客様だけでなく、今後メキシコへの進出を考えているお客様にも安心して当社の製品を使っていただけます。また、将来的な現地法人の設立も視野に入れて、営業活動や情報収集に励んでいきます。



ぎんなん殻割り機「銀次郎」初荷式

平成26年3月7日、ぎんなんの殻を自動で割る機械「銀次郎」が初出荷を迎え、初荷式を行いました。

農業分野への進出は初の試みであり、栽培状況によって厚さや硬さが異なるぎんなんのデータ化が困難でしたが、開発から4年をかけてようやく完成し、出荷を迎えることができました。

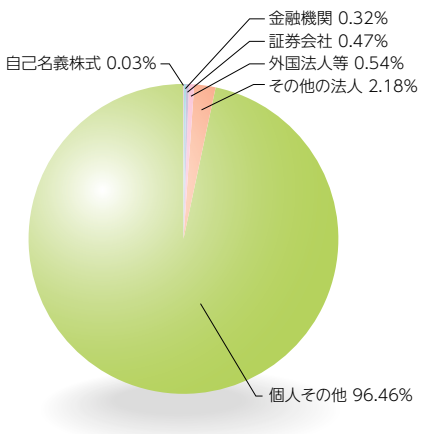
農業・食品分野向けの機械製造が事業の柱の一つになるよう、今後も新たな製品の開発に取り組んでいきます。

株式の状況（平成26年3月31日現在）

株式の状況

①発行可能株式総数……30,000,000 株
②発行済株式総数……11,020,000 株
③1単元の株式数……100 株
④株主数……3,164 名

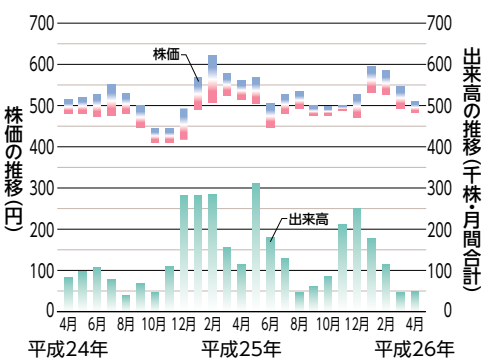
所有者別分布状況



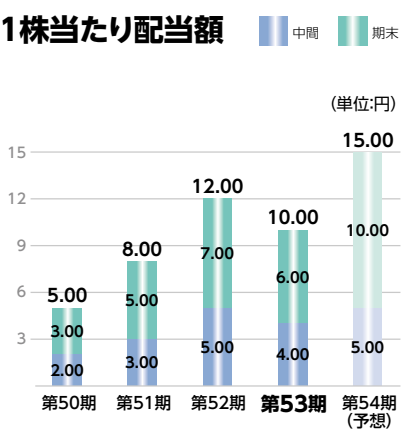
大株主

株主名	当社への出資状況 所有株式数(千株)	持株比率(%)
高松機械工業取引先持株会	895	8.12
株式会社タカマツ	810	7.35
北国総合リース株式会社	433	3.93
日本生命保険相互会社	432	3.92
BBH FOR FIDELITY LOW -PRICED STOCK FUND	414	3.76
株式会社北國銀行	408	3.70
高松機械工業社員持株会	407	3.70
明治安田生命保険相互会社	360	3.27
株式会社朝日電機製作所	339	3.08
三井住友海上火災保険株式会社	333	3.02

株価インフォメーション



1株当たり配当額



会社の概要 (平成26年3月31日現在)

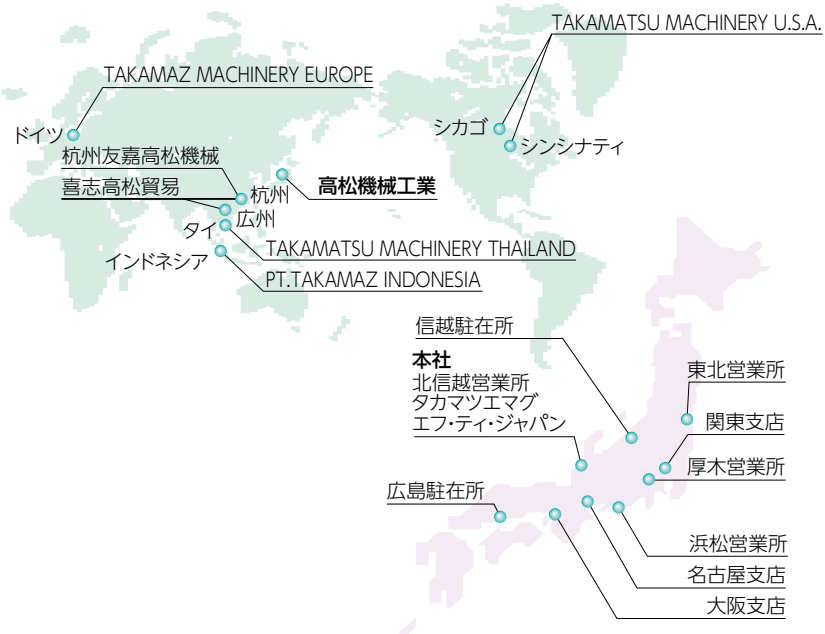
会社概要

商号	高松機械工業株式会社
設立	昭和36年7月
資本金	18億3,539万円
本社	石川県白山市旭丘1丁目8番地
従業員数	433名
子会社および関連会社	TAKAMATSU MACHINERY U.S.A., INC. TAKAMATSU MACHINERY (THAILAND) CO., LTD. TAKAMAZ MACHINERY EUROPE GmbH 喜志高松貿易(杭州)有限公司 PT.TAKAMAZ INDONESIA 株式会社タカマツエマグ 杭州友嘉高松機械有限公司 株式会社エフ・ティ・ジャパン
ホームページアドレス	http://www.takamaz.co.jp

役員 (平成26年6月26日現在)

代表取締役社長	髙松喜与志
専務取締役(生産本部長兼新分野事業部担当)	前田充夫
専務取締役(営業本部長兼部品事業部担当)	中西与平
常務取締役(管理本部長兼品質保証部担当)	溝口清
取締役(管理本部総務人事部長)	宮川隆
取締役(生産本部技術部長)	徳野穣
取締役(生産本部第一製造部長)	中川進
取締役(営業本部海外営業部長)	髙松宗一郎
取締役(営業本部国内営業部長)	磯部稔
取締役(社外)	中西祐一
常勤監査役	池上佳信
監査役(社外)	鍛治敏弘
監査役(社外)	杖村修司

ネットワークとサービス体制



事業所

本社工場(工作機械事業)

第2工場(コレットチャック生産)

第3工場(自動車部品加工)

開発センター(IT関連製造装置)

製品のご紹介

NEW XW-200

大手自動車メーカーからの熱い要望にお応えし、大型加工物の自動切削を実現！
高剛性ボディに高出力モータを搭載し、大きな部品も余裕のパワーで加工します。

NEW XW-30PLUS

従来機の特長である省スペースはそのままに、より幅広い加工に対応できるようモデルチェンジしました。
国内だけでなく海外でも需要のある、高効率マシンの登場です。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
株主確定基準日	(1) 定時株主総会　3月31日 (2) 期末配当金　3月31日 (3) 中間配当金　9月30日 (4) その他必要ある時　あらかじめ公告して定めた日

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人 および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（郵便物送付先）	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先） （インターネットホームページURL）	☎0120-782-031 http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます）を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先にお願いいたします。

公告の方法	当社ホームページに掲載　http://takamaz.co.jp
上場証券取引所	東京証券取引所市場第二部
お問い合わせ先	管理本部 企画経理部 TEL 076-274-1410〈直通〉　FAX 076-274-1418

TAKAMAZ 高松機械工業株式会社

ホームページ http://www.takamaz.co.jp

R80 このパンフレットは再生紙を使用しています。

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

VEGETABLE OIL INK